

## 第12回学校統廃合検討委員会（H19.2.22）会議録

平成19年2月22日（木）18時30分～21時15分

大東市役所本庁2階 委員会室

傍聴者5名 委員2名欠席

- 会長 　　ただ今より、第12回の検討委員会を開催します。  
　　前回の会議録について、意見等はありませんか。
- 委員 　　私の発言の趣旨は、学校が小規模化すると保護者は減少し負担が大きくなる  
　　ということであり、「地域の協力も減少する」ということではないので、その  
　　部分の削除を求める。
- 会長 　　それでは、その部分は削除し、他に異議等がなければ、削除部分以外は原案  
　　どおりとします。
- 委員 　　資料はホームページに掲載されますか。
- 事務局 　　会議録と同様に配付資料をホームページに掲載しています。
- 会長 　　「出前議会」の報告があれば、事務局よりお願いします。
- 事務局 　　議会事務局より資料等を取り寄せ、次回に報告したい。
- 委員 　　前回の資料について、「地区別・年齢別児童生徒数」の資料は、校区変更に  
　　伴う経過措置が反映されていないので留意が必要。  
　　また、少人数学級の取り組みに関して、ある学校において少人数学級の取り  
　　組みをしたのにもかかわらず「いじめ」の問題が解決されず、かえって際だっ  
　　てしまい、私立の中学校への進学が増える結果となっている事象があることを  
　　報告します。
- 会長 　　次に、本日委員から提出された資料の説明をお願いします。
- 委員 　　―「子どもたちの教育環境には少人数学級が一番」の資料説明（略）―
- 会長 　　ただ今の説明に対して意見等はありませんか。
- 委員 　　資料にあるように、35人学級を導入したとしても、将来的には12学級を  
　　割る学校が出る。
- 委員 　　35人学級を導入すれば、18・19人という少人数のクラスができ、男女  
　　別には8・9人となれば問題ではないか。
- 委員 　　平等な教育を受けるという観点から、小規模校は1クラスの人数が少なすぎ  
　　ると考える。
- 委員 　　学校を選択できないという事情もある。
- 委員 　　しかし、小規模、少人数学級は行き届いた教育ができる。
- 委員 　　規模が大きくなれば、教師の人数も増え、教師同士も相談でき、切磋琢磨す  
　　る環境もできるのではないか。

会長 いくつかの学校においては、児童・生徒数の将来予測数に関して、5年前の  
通学区域の検討時の予測数に比べ、現在は予想以上に児童・生徒は大幅に減  
少している。

国立教育政策研究所の調査結果においては、学力と学級規模の相関関係はあ  
まりないようであり、また、児童・生徒が望む学級規模としては、小学校で  
30～35人、中学校では25～35人という傾向が読み取れる。

委員 学級規模を学力の観点から議論するのではなく、子どもの視点から議論すべ  
きで、子どもは多くの友達のなかで育っていくべきと考える。

東部地域はマンション・住宅開発はないだろうから、将来的展望に立って統  
廃合を検討すべきである。

委員 いじめ・不登校をこの検討委員会で議論するのではなく、子どもにとってど  
れくらいの学校規模が適正かを議論すべきである。

会長 いじめ・不登校と学校・学級規模との相関関係のはっきりした資料もないし、  
ある程度の学校・学級規模が必要との意見が多いので、さらに議論を進めて  
いきたい。進める上で、第10回委員会の「答申に向けての基本的事項につ  
いての素案」を基に進めたい。

この素案に対して各委員から意見をいただきたい。

委員 長期的な中学校の統廃合、小学校と中学校との接続に関連して、素案の A  
案の方向であれば校区変更をセットで考えていただきたい、B案の方向であ  
れば、校区変更は今しばらく様子を見てはいかがかと考えます。

委員 A案の場合は、新北条小学校が将来的に12学級を下回る可能性がある。

委員 A案の場合は、同時に統廃合が必要となり、自治会の分断、最小規模の四条  
小学校が対象にならないという問題がある。B案は1校ずつ対応でき、分か  
れた学校を元に戻すということから賛成である。ただし、南津の辺を四条北  
小学校区に変更することについては、さらに議論が必要である。

委員 全学年35人学級の弾力的運用をすれば、深野北小学校は統廃合の対象から  
はずれるのではないか。

委員 素案の A 案・B案の議論を進めて一定の結論を出して、市民に意見を求め  
るべきである。

会長 ある程度の学校・学級規模が好ましいとの意見があり、また特定の教科で少  
人数授業を行うという手法もあるが、事務局のコメントはいかがか。

事務局 事務局としては、ある程度の学校規模は必要ではないかと考えますし、教科  
によってはクラスを分けてきめ細かな指導が望ましいとも考え、両方を兼ね  
備えるのが理想であると考えます。

委員 中学校ではすでに分割授業が取り入れられており、習熟度別授業とは違っ

て、よくできる子がリーダーシップを発揮したり、分からなかった子が分かるようになったりと良い面があり、その意味でもある程度の規模が必要ではないか。

事務局

学校によっては習熟度別授業を取り入れている学校もあり、それぞれの学校でいろいろ工夫して指導にあたっています。

委員

かなり議論も煮詰まってきた感じですし、次回の会議では素案のA案かB案のどちらかを決めて、その上で微調整をしていくという方向でいかがか。

会長

基本的にそのような方向で、次回進めていきたい。

次回は、3月15日（木）に開催することを決定して、閉会する。